

ニラ褐色葉枯病の症状と発生時期



写真-1

写真-2

写真-3

写真-4

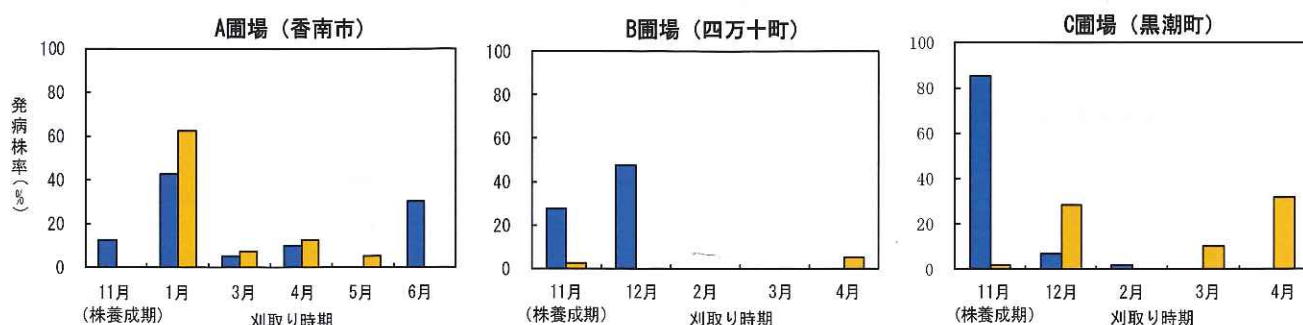


図 刈取り時期毎の葉枯れ症状および斑点症状の発病株率 (2015年11月～2016年6月)

■ ; 葉枯れ症状、■ ; 斑点症状

県内のハウス栽培ニラにおいて、生育期間中に「葉枯れ症状」や「斑点症状」が発生しており、品質低下を招くため問題となっています。そのため、これらの障害の原因究明を行うとともに、それぞれの発生時期を調査しました。

その結果、両症状とも糸状菌の一種である *Stemphylium lycopersicil* によって引き起こされる病害(ニラ褐色葉枯病)であることが明らかとなりました。

「葉枯れ症状」は、はじめ淡黄色で、次第に中央部が白色で淡褐色～褐色の紡錘形となり(写真-1)、やがて黒褐色で同心円状の模様を伴った大型斑紋になります(写真-2)。新葉の先端や縁、中央部のほか、刈取り後の葉(かま葉)の切り口にも

発生します(写真-3)。

発病は、株養成期から収穫期の長期間みられますが、特に11月～翌年1月に多くなる傾向がみられました(図)。

「斑点症状」は、淡黄色の円形の微小な斑点が葉身に生じます。斑点は、1葉あたり1～数個形成されますが、厳寒期には葉身全体に多数生じる場合もありました(写真-4)。発病は、株養成期間である11月からみられ始め、収穫初期の翌年1月に目立ち、春季にもみられました(図)。なお、厳寒期には両症状が併発することもありました。

今後は、本病の発生しやすい温湿度条件の調査や有効薬剤の検討をすすめていく予定です。

(病理担当 山崎睦子 088-863-4915)

高知県農業技術センターニュース 第88号 平成29年7月1日

編集発行 高知県農業技術センター 所長 石本 周平

農業技術センター

〒783-0023

高知県南国市廿枝 1100

TEL (088) 863-4912

FAX (088) 863-4913

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2012>

果樹試験場

〒780-8064

高知市朝倉丁 268

TEL (088) 844-1120

FAX (088) 840-3816

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2013>

茶業試験場

〒781-1801

吾川郡仁淀川町森2792

TEL (0889) 32-1024

FAX (0889) 32-1152

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2014>